

Typhoon Haiyan (Yolanda)

2013年11月8日 フィリピン上陸

人的被害(フィリピン国政府発表 11月16日時点)

死者	3633人
負傷者	12487人
行方不明者	1179人

犠牲になられた多くの方々とご遺族の皆様に対し、心よりお悔やみ申し上げるとともに、被災された方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

2013フィリピン班

宮原 敏 (班長)

大保 文香 池田 隆史

岡 毅寛 武井 祐樹

まずは、班員紹介！

ミスター ファイリピン班

大学院医学系学府細菌学分野
宮原 敏

2013 09 08

Ms. フィリピン班

保健学科3年
大保 文香



USA班？ ミスター



医学科2年
岡 毅寛

2013 09 08

ミスター さっきの人

医学科2年
池田隆史



ミस्ताー 運搬っ！

医学科1年
武井祐樹

2013 09 09



それでは、内容に入っていきます

活動目的

フィリピンの感染症問題で、
日本がすべきことを考える。

去年の活動からヒントを得て...

フィリピンでレプトスピラの研究を中心に活動

レプトスピラ症



レプトスピラ症：
細菌による感染症。
汚染された水などにより経皮的に、
ヒト・動物に感染する。重症では黄
疸、出血、蛋白尿が出て、最悪の場合
は死亡。



九大教授(稲田龍吉先生)が
1915年に病原体を発見した

レプトスピラ症

日本： 元々多かったが、衛生環境の改善により減少

世界： 年間50万人（推定） 死亡率10～20%（推定）

熱帯地方の**発展途上国**で集団発生

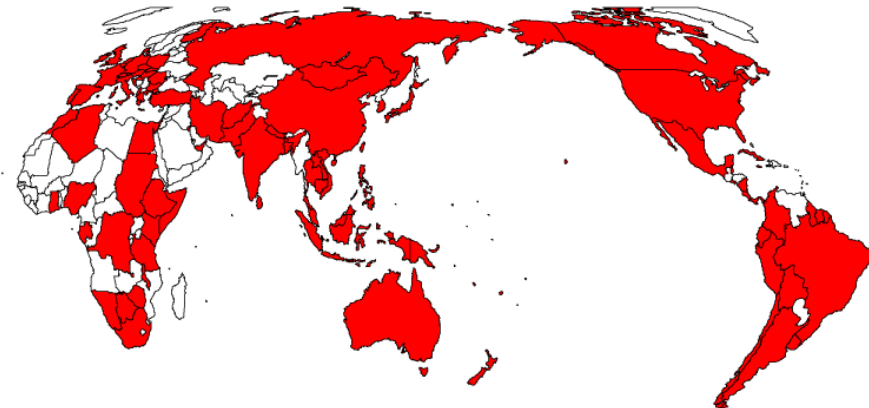
↑ 研究・予防対策が十分に行われていない

	感染者数	死亡者数
フィリピン	2016	156
日本	20～30	2～3

フィリピンの記録は2011年1月～9月24日、
日本の記録は近年の相場

図1. 世界のレプトスピラ症

ヒトレプトスピラ症発生事例、動物のレプトスピラ症発生事例およびヒト、動物の血清疫学の陽性事例のあった国





2013年8月末 集中豪雨による洪水

(WHO-WPRO)

フィリピンにおけるレプトスピラ症問題

不衛生な生活環境

ドブネズミ(保菌動物)が多い

インフラ未整備

冠水しやすい

生活習慣

水への接触を避けない



大雨・洪水時に集団発生

but

診断が困難

感染実態が不明

保菌動物が多い

ワクチンがない

認知されていない

etc...



集団発生の予防対策が未整備

LEPCON

(The Project for Prevention and Control of Leptospirosis in the Philippines)

基礎研究を通じた国際協力

研究・教育拠点

九州大学医学部
細菌学

調査・交流拠点

フィリピン大学マニラ校
公衆衛生学部

迅速診断キットの開発
DNAワクチン開発

疫学調査(流行中の種類を調査)
診断キットとワクチンの検証

昨年の活動

フィリピンでのレプトスピラの研究を中心に活動



班員:宮原 敏

久保山 雄介

深水 倫子

大保 文香

野田 美香

本島 恵理香

活動内容:野鼠の保菌状況と血清抗体価の調査
環境水の汚染状況調査
実験室見学

LEPCONに参加する形での活動

国際協力と聞くと...

現地の人との触れ合い
即効性がある

- ・国境のない医師団
- ・青年海外協力隊

体を動かして治療・予防に回る
方が良いのでは？

すべきことはレプトスピラの研究か？

方法

日本・フィリピン二国間協力における
研究以外の支援を見る

フィリピンの現状と、
日本が行っている支援を理解する

感染症対策全体での
研究という支援の位置づけを考える

今回の活動地

- フィリピン大学
(レプトスピラ基礎研究)



昨年と同じ

- ギマラス島の保健所
(青年海外協力隊)
- マニラの都市貧困地区
(結核対策)

活動の比較

	LEPCON	地域保健	結核発病予防モデルプロジェクト
活動者	九大・フィリピン大	青年海外協力隊	結核予防会
扱う病気	レプトスピラ	AIDS等	結核
活動の規模	国全体	田舎の1地域	都市(マニラ)の数地域
活動の形態	基礎研究	検診・住民教育	DOTs 支援

活動内容紹介

活動内容

- 9/6: 青年海外協力隊訪問
IN ギマラス島
- 9/10: レプトスピラ
プロジェクト見学
IN フィリピン大学
- 9/11: 結核対策プロジェクト
IN マニラ貧困地区
- 9/12: フィリピン大学
病院内見学
- 9/13: JICA・WPRO訪問



①青年海外協力隊 ～地域保健～

今回お世話になった方

<辻かおりさん>

- 日本で看護師として活動
→保健師として派遣
(二年間)
- 施設分娩をするための施設を建てるために来た
→実現できず
- 現在は母子保健、
HIV教育を行っている



当日の見学内容

- 保健所訪問・・・妊婦健診見学
- ヘルスオフィス訪問
- 自治体の集落訪問
- 緊急病院訪問



自治体で行われていた 活動の見学



保健所にて
妊婦健診





母子手帳も！

PANEL 3

REFERRAL:
PROBLEMS IDENTIFIED AND ACTION TAKEN
BY MIDWIFE/NURSE/DOCTOR
(INDICATE DATE)



FINDINGS, ACTION TAKEN AND INSTRUCTIONS
FROM REFERRAL CENTER



PANEL 4

POST PARTUM

TIMING OF POSTPARTUM VISIT	HOME VISITS			CLINIC VISIT
	24 HRS	1 WEEK	2-4 WEEKS	
DATE OF VISIT				
EXCLUSIVE BREASTFEEDING (Y/N)				
INTENDS TO USE FAMILY PLANNING (Y/N)				
FEVER > 38°C (Y/N)				
FOUL SMELLING VAGINAL DISCHARGE (Y/N)				
EXCESSIVE BLEEDING (Y/N)				
PALLOR (Y/N)				
CORD CRY (Y/N)				
VITAMIN A 200,000 IU (Y/N)				
IRON/FOLATE DATE/W				

☐ REFER TO HOSPITAL
☐ REFER TO PHYSICIAN/NURSE
☒ YES ☐ NO

FAMILY PLANNING PROBLEMS

DATE OF FOLLOW UP	DATE OF VISITS	METHOD	QUANTITY GIVEN	REMARKS

BREASTFEEDING IS BEST FOR YOUR BABY. SPACING BIRTHS MORE THAN 24 MONTHS APART WILL ENSURE YOUR HEALTH AND THE HEALTH OF YOUR CHILDREN.

PANEL 5

(ENGLISH)
HOME BASED MOTHER'S RECORD
ALWAYS BRING THIS CARD WHEN YOU VISIT A HEALTH FACILITY

BLOOD TYPE: FAMILY SERIAL NO.:

NAME: Refany Mae Y. Duran

ADDRESS: Salicacion

DATE TETANUS TOXOID GIVEN:

17/18 2-3-2-2 3 4 5

AGE: 16 yr. ☐ Below 10 ☐ 10-14 ☐ 15+

HEIGHT: 160 cm ☐ Below 145 cm ☐ 145 cm & above

OBSTETRICAL HISTORY

NUMBER OF PREVIOUS PREGNANCIES	1	2	3	4+
PREVIOUS CAESAREAN SECTION	☒ NO	☐ YES		
3 CONSECUTIVE MISCARRIAGES	☒ NO	☐ YES		
STILLBIRTH	☒ NO	☐ YES		
POST-PARTUM HEMORRHAGE	☒ NO	☐ YES		

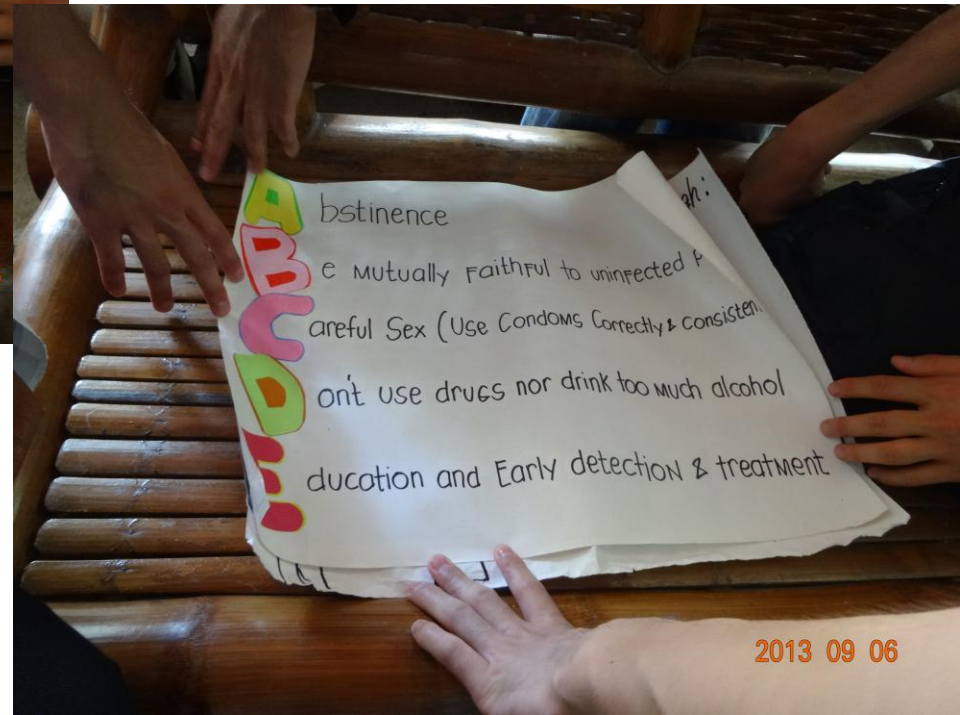
PRESENT HEALTH PROBLEMS

TUBERCULOSIS (14 DAYS + OF COUGH)	NO	YES
HEART DISEASE	☒ NO	☐ YES
DIABETES	☒ NO	☐ YES
BRONCHIAL ASTHMA	☒ NO	☐ YES
GOITER	☒ NO	☐ YES

☐ = REFER TO PHYSICIAN/NURSE (AND FOLLOW UP)
☐ = CLOSE OBSERVATION OR ACTION BY MIDWIFE/NURSE
☒ (H) = HOSPITAL DELIVERY RECOMMENDED

* You may wish to consider a permanent method of Family Planning

AIDS·HIV教育





救急車(!?)で各地へ

自治体内の
地方の集落



ここに辻さんの
担当の保健所が



救急病院へ





設備は
ありはするが...

古い・管理が雑
なものも



②レプトスピラプロジェクト (LEPCON)

②レプトスピラプロジェクト (LEPCON: Prevention & Control of Leptospirosis in the Philippines)

- 九州大学細菌学の吉田教授が
JICAとJSTの協力のもとに設立
- 九州大学とフィリピン大学によるレプトス
ピラ症の予防対策・治療技術開発
- JICAがフィリピン側の設備に対し資金援
助

今回行った目的は・・・

- LEPCONの概要を理解
- 研究所の見学



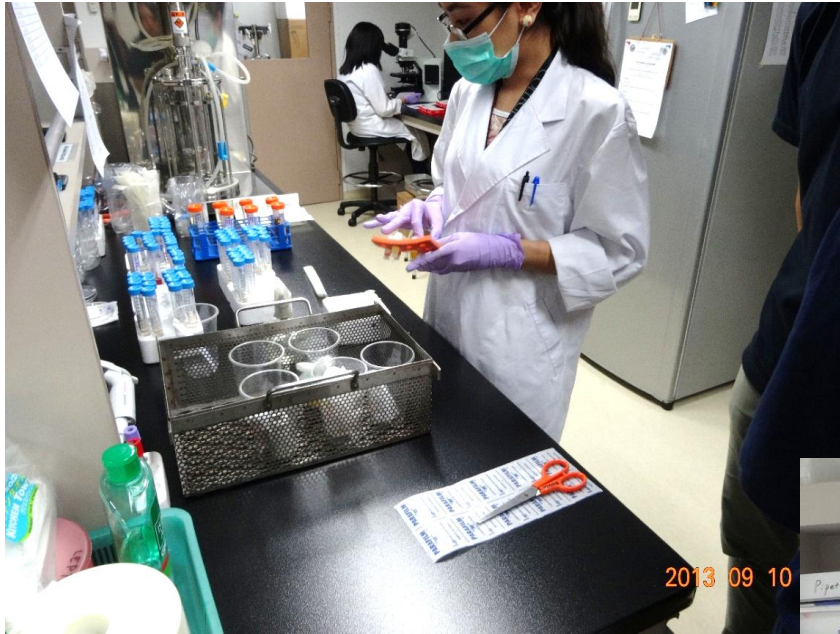
2013 09 10

当日の見学内容 (フィリピン大学にて)

フィリピン大学側責任者
グロリアーニ先生のお話



研究室見学



患者の血清を
調べている様子

顕微鏡をのぞ
かせてもらっ
てます



レプトスピラ症診断の ための検査 見学中



③結核対策（結核予防会）

③結核対策（結核予防会）

～マニラ首都圏都市貧困地区における結核感染・発
病予防モデルプロジェクト～

- 1939年に設立した
公益財団法人
- 国内外における結
核制圧が目標
- 首都マニラ貧困地区
での支援



当日(9/11)の見学内容

- 結核予防会事務所でお話
- ヘルスセンターへ
 - ①DOTs見学
 - ②ボランティアの人たちとお話し
- スラム街へ(患者訪問)

事務所でお話

- 結核予防会の概要・活動の説明
- 質疑応答



2013 09 11

マニラのヘルスセンターへ



センター内

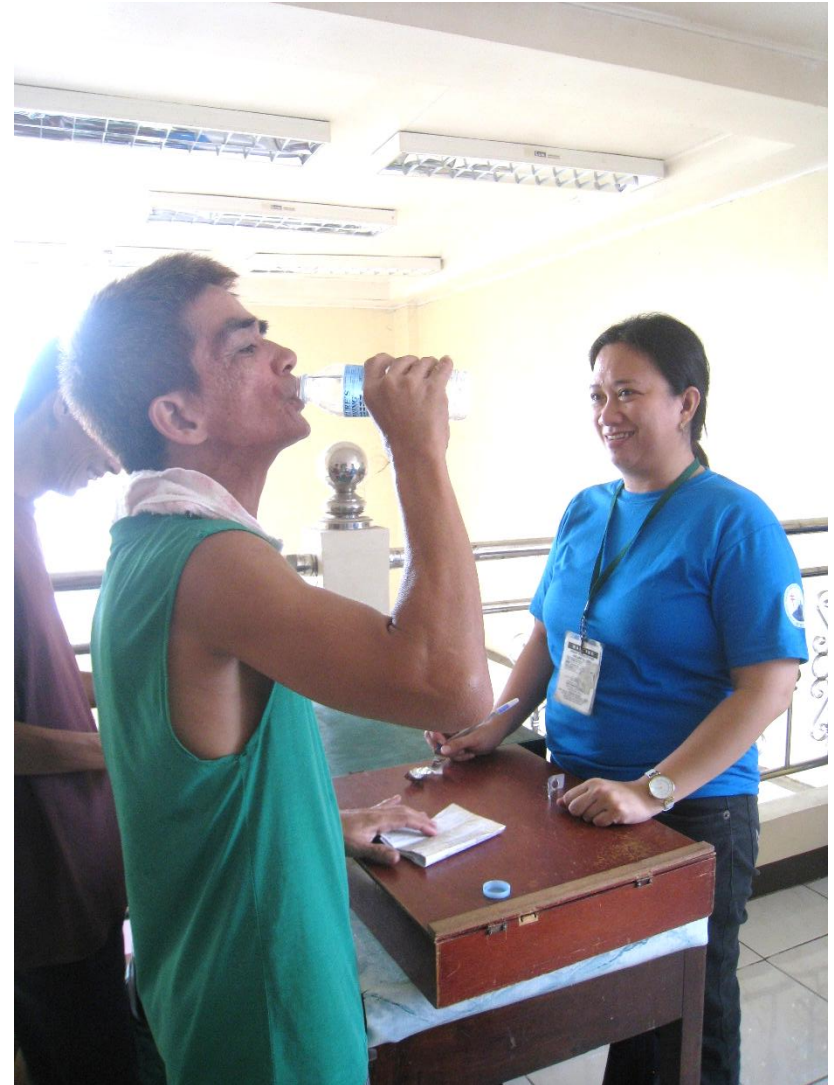


結核患者・結核疑い患者は
他の患者とは別に二階へ

保健所での取り組み DOTsの実施

＜DOTsとは＞

- Direct Observed Treatment, Short-course
- 患者の薬の服用を直接監査することで、治療を確実に行う
- 患者自身の判断で投薬を止めてしまうことを防ぐ





患者ごとに薬を区分



監視のもと服用

患者訪問にスラム街へ

- スラム街内は結核感染が多い
- 保健所に来ることができない人・こない人に対し、直接訪問



スラム街にて

劣悪な居住空間に
多くの人が





子供の患者も

苦しい生活でも
子供たちは元気





ここで、休憩代わりに・・・

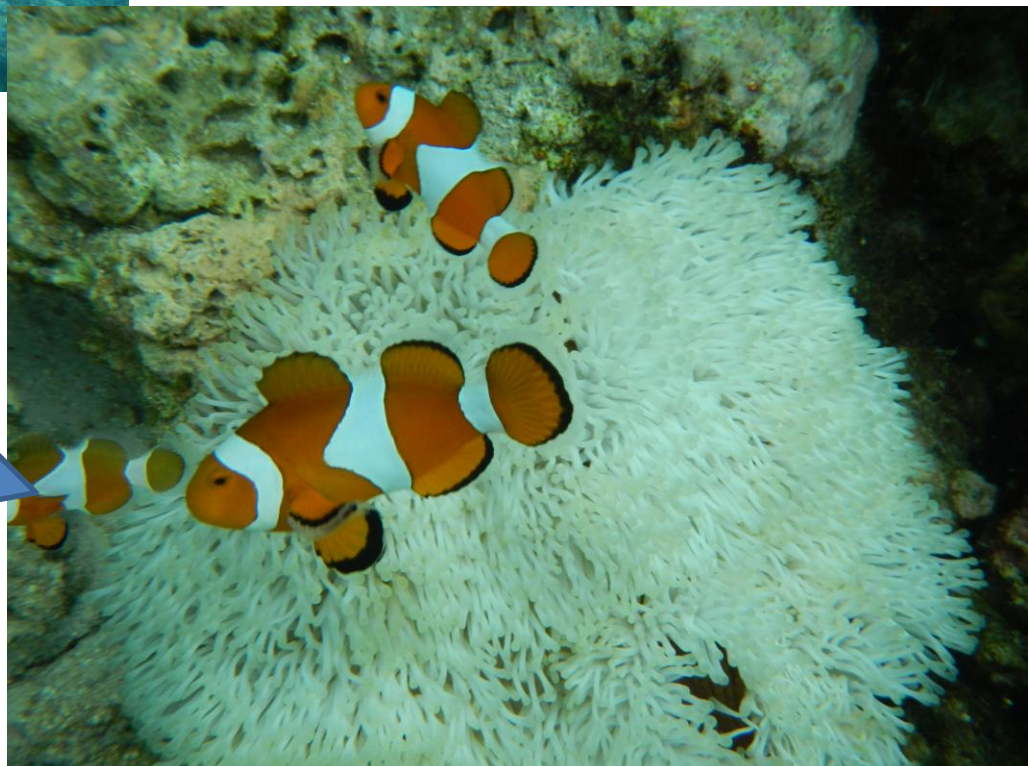
泳いで参りました





すいー

二●だ！
●モがいる！



さてさて...

A young man with dark hair is lying in a hospital bed, sleeping peacefully with his eyes closed. He is wearing a white hospital gown. The bed has white pillows and a light-colored blanket. In the background, there are beige curtains and a white wall with a vent.

休憩は終わりにして、

2013 09 06

考察に、
入りたいと
思います。



2013 09 05

確認

感染症対策の中の
レプトスピラの研究という支援の位置づけ
を調べたい

この発表での定義

「研究」・・・科学的方法で新しい知識や技術を得ること。

ex.疫学調査、ワクチン・診断キットの開発

「研究以外」→

「実践」・・・研究で得た知識や技術を用いて、対人的に行う事。

ex.予防、啓蒙、治療、診断

フィリピンに足りないもの・
フィリピンが持っているもの
が見つかった

フィリピンに足りないもの

最新の医療設備



衛生的な住居



救急車の運用システム



挙げればきりが無いほど沢山見れた
これらを整えるだけが、感染症対策ではない

フィリピンが持っているものも見えた

ギマラス島に行って



ギマラス島に行って

1つの島のあちこちに
「禁煙」の文字



「禁煙」の文字の理由

島の保健を担当した医師が、禁煙対策を推進

リーダーが何をやるかを決めると、
地域行政が力を発揮

結核対策の現場を見て



DOTsにきちんと来るようサポート
(DOTs: 監視下での服薬)

2013 09 11

サポートグループ

構成： 元患者、家族、友人

目的： 患者にDOTSの必要性を説明、
さぼらないように指導

どうやるか(DOTs)が決まると、
住民の力で運営可能
外部の人間よりも効果的

フィリピンが持っているもの

実践（予防、啓蒙など）のキャパシティ

ギマラス島の例

結核対策の例

フィリピンで感染症対策が上手いかわからないのは
実践のキャパシティを活かしきれてないから

実践のキャパシティを活かすには

「何をすべきか」を決めれば良い

どの種類が流行しているのか調べる
「どのような治療をすべきか」を示す
「どうすれば防げるか」を示す

つまり

実践の高いキャパシティを生かすには
研究のキャパシティを高めれば良い

まとめ

- ・ 研究という支援の位置づけはどうか？

感染症対策で、実践のキャパシティを生かす、研究のキャパシティを強化する支援
(ここを正確に行えば感染症対策は良くなる)

- ・ 研究という支援に疑問があったが
的確な支援
研究者レベルでの技術協力を続ける

来年に向けてやりたいこと

- レプトスピラのプロジェクトが、
どのように進んでいるか見てみたい
- 保健省で働いている日本人の話を聞きたい
- 国土交通分野の人の話を聞きたい
- バランガイでレプトスピラの授業をしてみたい